

# 進化し続ける 前眼部OCT CASIA2

日時

4.17 Fri  
12:05▶12:55

\*日本眼科学会総会はWEB開催となりました。  
WEB公開は、4月27日(月)正午～5月10日(日)です



Organizer

大鹿 哲郎先生

[筑波大学 教授]

1985年 東京大学医学部 卒業  
1985年 東京大学医学部眼科学教室  
1995年 東京大学医学部 講師  
1997年 Louisiana State University,  
Visiting Assistant Professor  
1998年 東京大学医学部 助教授  
2002年 筑波大学眼科 教授

会場

第4会場

東京国際フォーラム  
Bブロック5FホールB5(1)



Lecturer  
1

前田 直之先生

[湖崎眼科 副院長]

進化し続ける  
CASIA2解析アプリケーション

1984年 高知医科大学 卒業  
1992年 米国ルイジアナ州立大学眼科  
リサーチフェロー  
1999年 大阪大学眼科学教室 講師  
2001年 大阪大学大学院感覚機能形成学 助教授  
2004年 大阪大学大学院視覚情報制御学 寄附講座教授  
2017年 湖崎眼科副院長、大阪大学大学院 特任教授



Lecturer  
2

上野 勇太先生

[筑波大学 講師]

CASIA2を用いた  
水晶体・IOL解析

2007年 筑波大学医学類 卒業  
2009年 筑波大学眼科  
2015年 筑波大学眼科 病院講師  
2018年 筑波大学眼科 講師



Lecturer  
3

坂田 礼先生

[東京大学 特任講師]

全周の隅角撮影による  
狭隅角の解析と診断

2002年 千葉大学医学部医学科 卒業  
2002年 国立国際医療センター 初期研修医  
2004年 東京大学医学部付属病院 眼科 医員  
2009年 東京大学医学部付属病院 眼科 助教  
2011年 東京都健康長寿医療センター 眼科 医員  
2016年 東京大学医学部付属病院 眼科 助教  
2019年 東京大学医学部付属病院 眼科 特任講師

Lecturer 1

前田 直之先生

湖崎眼科 副院長

## 進化し続ける CASIA2解析アプリケーション

前眼部疾患の診療においては、細隙灯顕微鏡検査が基本であるが、近年登場した前眼部OCTでは、細隙灯顕微鏡検査で出来ない、混濁組織の観察、高倍率の観察、定量的解析が可能である。特に、定量的解析に関しては、涙液、角膜、隅角、瞳孔、水晶体と、前眼部組織を広く解析できる。現在、これらを統合したトータルスクリーニングのソフトウェアが開発中である。本講演では、その内容について解説させて頂きたい。

Lecturer 2

上野 勇太先生

筑波大学 講師

## CASIA2を用いた水晶体・IOL解析

CASIAシリーズ第二世代であるCASIA2は角膜前面から水晶体後面までを一枚の画像に収めるほどの広い撮影範囲を持ち、従来のCASIAの機能に加えて水晶体や眼内レンズ (IOL) のイメージングにも適した機器として登場した。当初から水晶体・IOLの傾斜や偏心、前後面の曲率半径などを測定することが可能であったが、後にIOL形態計測機能を応用したトーリックIOLの固定軸を推定するプログラムが搭載されるなど進化を続けており、今後も水晶体・IOL関連で汎用性の高いアプリケーションの充実が期待される。

今回、水晶体核や皮質のセグメンテーションを中心に、現在アプリケーション化を見据えて取り組んでいる水晶体・IOLの定量解析方法をいくつか紹介したい。本講演を通じて、日本が世界に誇る前眼部OCTの進化と未来像を感じていただければ幸いである。

Lecturer 3

坂田 礼先生

東京大学 特任講師

## 全周の隅角撮影による狭隅角の解析と診断

前眼部の光干渉断層計 (OCT) の一つであるCASIA2 (株式会社トーマコーポレーション) は、前房隅角構造を定量的に測定することができる機械である。これまで隅角評価、特に開大度については隅角鏡で定性的に行われてきた。閉塞隅角か開放隅角か、という診断はその後の治療方針を左右する大切な情報であるが、検査が患者に侵襲的である上に、評価に時間がかかる、そして経験が浅いとその評価に確実性がない、のが難点であった。

この度、CASIA2には国際共同研究で得られた狭隅角眼のノーマティブデータが搭載された。非侵襲的に数秒で隅角を撮影、10度毎の隅角解析を自動で行う。眼底OCTのようなカラーチャートで隅角開大度を判定する時代が遂にやってきた。